

〔小計 60点〕

問一 (8点) 耳の聴こえない両親のため、手話通訳をして一人を守ること。

問二 (16点) 自分のやりたいことを我慢して、両親のために時間を使うことへの不満がたまり続ける日々の中での、炭酸飲料の蓋を開ける心地よい音を聞くと、一瞬だけ解放されるような気持ちになつたから。

問三 (18点) ママンの愛情は変わることがなく、いつも自分を理解してくれていて信じていたが、木花さんを優先し、本当の気持ちを理解してくれなかつたことで、裏切られたような激しい失望と、誰も自分を分かつてくれない絶望を感じているということ。

問四 (18点) 耳の聴こえない父母を支えるために自分のしたいことを我慢してきた辛さを、正直に伝えることができ、また父母がその思いを受け止めてくれたことで、自分も愛されているという幸福感に包まれたから。

〔小計 30点〕

問一 (12点) オオカミは人のおこぼれにより楽にえさが得られ、人間はオオカミが近くにいることによつて他の動物から身を守られるという状態。

問二 (18点) 村瀬さんが「車に乗りましよう」ではなく「そろそろ船が出ますよ」と言えば、終戦時に闇舟で脱出した経験を持つお爺さんが送迎車に乗つてくれたように、相手の背負つていてる歴史やものの見方に寄り添うと一緒に行動することができるようになるということ。

【出典】

〔一 村崎なぎこ『オリオンは静かに詠う』
〔二 伊藤亜紗・村瀬孝生『ぼけと利他』〕

〔小計 10点〕
(2点×5)(1) 必至
(3) 磁器
(4) 縦断
(5) 起死回生